

令和 7 年度全国学力・学習状況調査の結果について

義 務 教 育 課

令和7年度全国学力・学習状況調査の結果について

取 扱 注 意

年度	校 種		小学校			総 合	中学校				総 合
	教 科		国 語	算 数	理 科		国 語	数 学	理 科	英 語	
R 3	平均正答率 (%)	徳島県	63	70			65	58			
		全 国	64.7	70.2			64.6	57.2			
	全国との差		-1.7	-0.2			+0.4	+0.8			
	全国順位		34	13		28	12	8			9
R 4	平均正答率 (%)	徳島県	64	62	62		71	55	50		
		全 国	65.6	63.2	63.3		69.0	51.4	49.3		
	全国との差		-1.6	-1.2	-1.3		+2.0	+3.6	+0.7		
	全国順位		33	24	34	33	4	3	10		5
R 5	平均正答率 (%)	徳島県	66	62			68	51		45	
		全 国	67.2	62.5			69.8	51.0		45.6	
	全国との差		-1.2	-0.5			-1.8	±0		-0.6	
	全国順位		34	16		26	39	15		15	20
R 6	平均正答率 (%)	徳島県	68	65			57	54			
		全 国	67.7	63.4			58.1	52.5			
	全国との差		+0.3	+1.6			-1.1	+1.5			
	全国順位		14	5		7	25	8			16
R 7	平均正答率 (%)	徳島県	66	59	55		53	49	494		
		全 国	66.8	58.0	57.1		54.3	48.3	503		
	全国との差		-0.8	+1.0	-2.1		-1.3	+0.7	-9		
	全国順位		22	8	41	※注 1	30	11	37		※注 2
	※注 1 小学校総合（国・算）の順位は、15位 小学校総合（国・算・理）の順位は、23位						※注 2 中学校総合（国・数）の順位は、17位				

本県の結果〔本県、全国ともに公立の値〕

※全国順位は、県教委が平均正答率から独自に算出した値

※R7中学校理科は、I R Tスコアの値

※ 結果公表日

テレビ・ラジオ・インターネット等
新聞

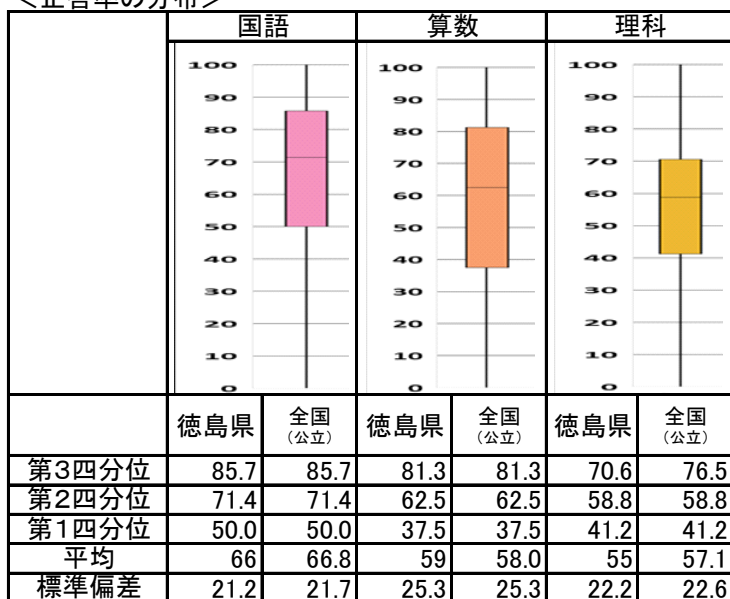
9月30日(火) 17時
10月1日(水) 朝刊

36.徳島県

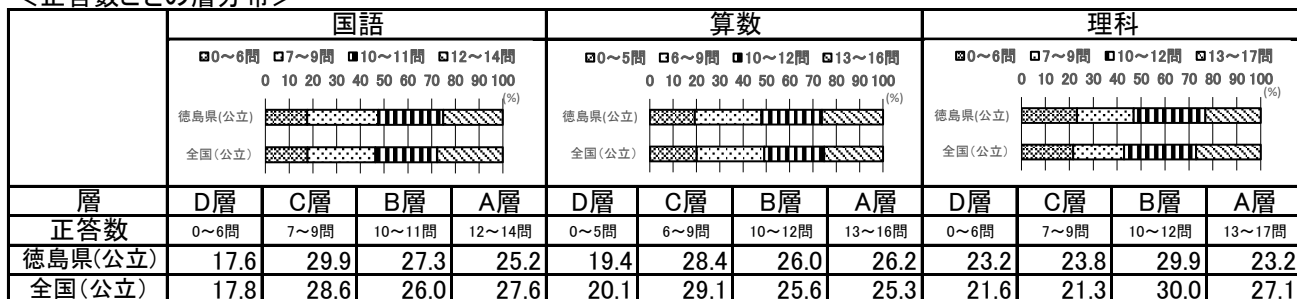
【1】教科調査・質問調査の結果

①小学校

＜正答率の分布＞

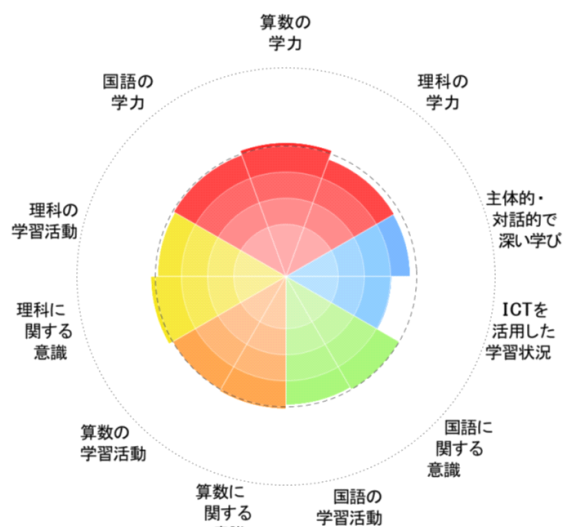


＜正答数ごとの層分布＞

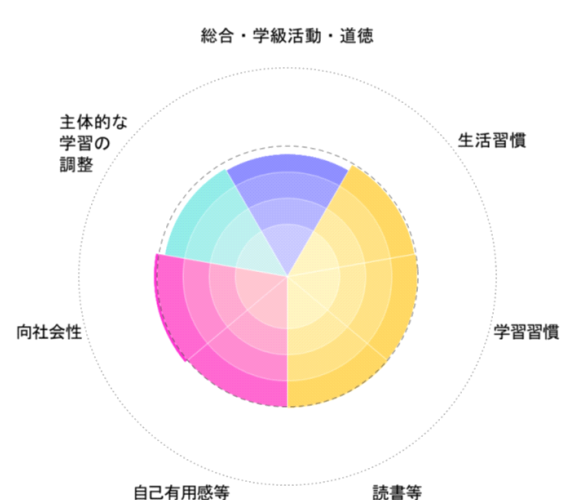


＜結果チャート＞

【教科を中心とした学力・学習状況】(全国基準)

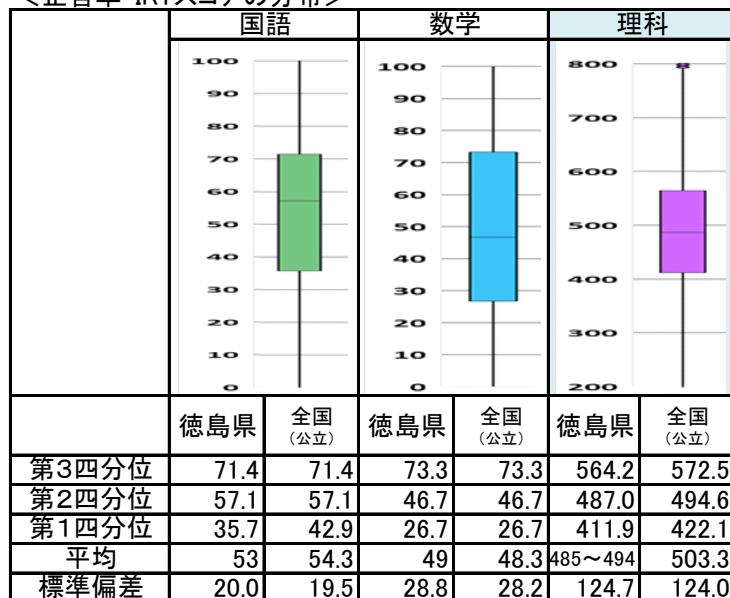


【その他の学力・学習状況】(全国基準)



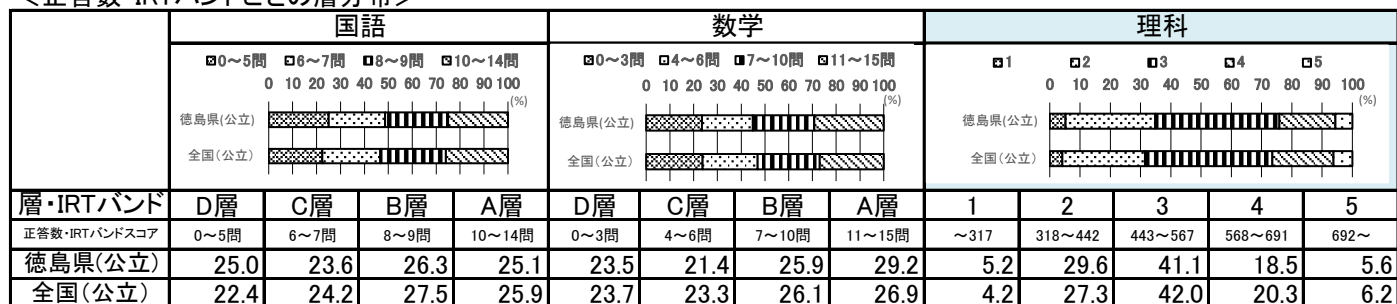
②中学校

＜正答率・IRTスコアの分布＞



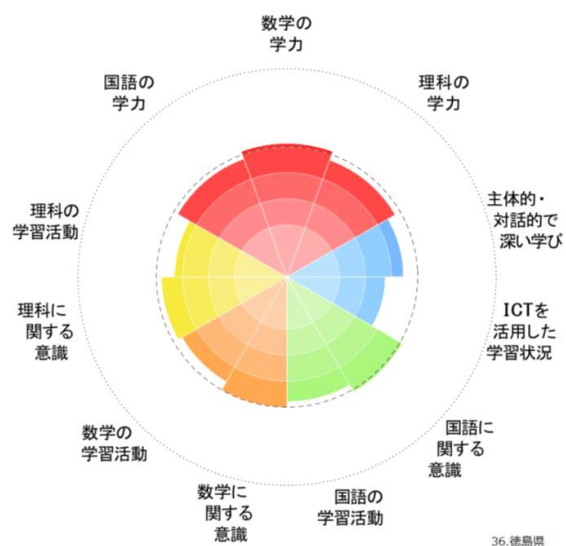
※中学校理科は、CBTで実施し、IRT(項目反応理論)に基づき算出したスコアにより結果を表示している。

＜正答数・IRTバンドごとの層分布＞

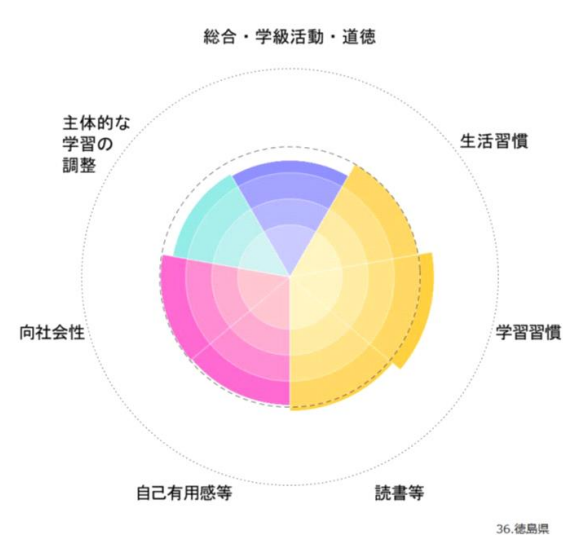


＜結果チャート＞

【教科を中心とした学力・学習状況】(全国基準)



【その他の学力・学習状況】(全国基準)



【2】全体の特徴

- ・全教科、全国的なばらつきの傾向と大きな差は見られなかった。
- ・D層の割合、バンド1の割合は、それぞれ全国の結果と比較して大きな差は見られなかった。
- ・小学校においては、「向社会性」や「理科に関する意識」領域のスコアについて、高い結果が出ている。また、「ICTを活用した学習状況」や「主体的・対話的で深い学び」領域のスコアについて、低い結果が出ている(うち、「ICTを活用した学習状況」は、全国と比較しても低い)。
- ・中学校においては、「学習習慣」や「読書等」領域のスコアについて、高い結果が出ている(うち、「学習習慣」は、全国と比較しても高い)。また、「ICTを活用した学習状況」や「理科の学習活動」領域のスコアについて、低い結果が出ている(いずれも、全国と比較しても低い)。

教科ごとの結果分析

小学校国語

学習指導 要領の 内容	知識及び技能			思考力・判断力・表現力等		
	言葉の特徴や使い方に 関する事項	情報の扱い方に 関する事項	我が国の伝統文化に 関する事項	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと
徳島(公立)	78.3	62.9	80.9	66.2	67.5	56.6
全国(公立)	76.9	63.1	81.2	66.3	69.5	57.5
差	+1.4	-0.2	-0.3	-0.1	-2.0	-0.9

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
徳島(公立)	75.1	62.7	
全国(公立)	74.5	63.8	
差	+0.6	-1.1	

問題形式	選択式	短答式	記述式
徳島(公立)	63.8	79.3	57.8
全国(公立)	64.7	78.5	58.8
差	-0.9	+0.8	-1.0

◇成果が見られる点

文章中の「このみ」「あつい」を、漢字を使って書き直す問題の正答率が高かった。

【〔2四ア〕 正答率:徳島県83.5% 全国81.6% ・〔2四イ〕正答率:徳島県73.0% 全国72.1%】

また、自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることはできていた。

【〔1三(2)〕 正答率:徳島県73.9% 全国73.7%】

「知識・技能」に関しては7割を超え、全国平均を上回っている。

▲課題が見られる点

目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題が見られた。【調べたこと】の〈本を読んで分かったこと〉と〈使ってみて分かったこと〉の両方から言葉や文を取り上げて、詳しく書くことができなかったと考えられる。

【〔2三〕 正答率:徳島県58.6% 全国61.3%】

また、目的に応じて、文章と図案などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる問題の正答率が低かった。

【〔3三(1)〕 正答率:徳島県38.4% 全国40.8%】

○授業改善のポイント

【定着に課題がある指導事項の明確化】→ カリキュラムマネジメントの推進

- ・課題を学校全体で共有し、系統性を意識した組織的な学習指導の改善充実を図る。
- ・定着に課題がある指導事項を明確にし、年間指導計画に反映させるなどして、反復的・発展的に繰り返しながら学習し、定着を図る。

【児童のつまずきに応じた学習指導】→ 「徳島版読解力」の活用

- ・「必要な情報を取り出す力(読み取った情報から、目的や意図に応じて、必要な情報を選び出す力)」や、「比較・関連付けて理解する力(取り出した情報を比較したり、相互の関係性を見いだしたりしながら、共感的、批判的な視点で情報の価値を捉える力)」の育成に力を入れる。
 - ・目的や意図に応じて、必要な情報を取り出して整理し、その関係を捉えることで、話や文章を正確に理解したり、自分のもつ情報を整理し、その関係を明確にすることで、適切に表現したりする活動を設定する。
 - ・「『徳島版読解力』を育成するための学習活動モデル」を授業に取り入れる。
- 【「主体的・対話的で深い学び」の実現】
- ・「質問紙調査」の結果を分析し、学習指導の改善・充実に役立てる。
 - ・他者から、考えや表現の仕方を学び、交流を生かして考えを表現したり、学んだことを振り返って今後に生かしたりする。

小学校算数

学習指導要領の領域	A 数と計算	B 図形	C 測定	C 変化と関係	D データの活用
徳島(公立)	62.1	59.3	57.3	56.4	61.7
全国(公立)	62.3	56.2	54.8	57.5	62.6
差	-0.2	+3.1	+2.5	-1.1	-0.9

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
徳島(公立)	66.0	49.1	
全国(公立)	65.5	48.3	
差	+0.5	+0.8	

問題形式	選択式	短答式	記述式
徳島(公立)	66.9	64.6	37.2
全国(公立)	67.2	64.0	34.9
差	-0.3	+0.6	+2.3

◇成果が見られる点

・県全体の平均正答率(59%)は、全国平均(58.0%)を上回り、「知識・技能」及び「思考・判断・表現」の両観点においても、それぞれ全国平均を上回った。

・全国平均と比べて特に正答率が高かった問題として、次の問題が該当する。※2つの問題はともに図形領域の問題である。

【2(2)】(知・技)台形の意味や性質の理解を問う問題 《県57.0%、全国50.2%(+6.8%)》

【2(4)】(思・判・表)図形を基本図形に分割し、面積の求め方を式や言葉で記述する力を問う問題

《県42.3%、全国37.0%(+5.3%)》

これらの結果から、県内の児童は図形の性質理解と基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を記述する力が全国平均よりも高い水準にあることがうかがえる。

▲課題が見られる点

・全国平均と比べて特に正答率が低かった問題として、次の問題が該当する。

【3(1)】(知・技)小数の加法について、数の相対的な大きさを用いて、共通する単位を捉えられるかを問う問題

《県69.2%、全国74.1%(−4.9%)》

0.01をもとにする数で捉えたときに、その数がどれくらいのまとまりで構成されているかについての理解が不十分であったことが考えられる。

【4(1)】(思・判・表)伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだす力を問う問題

《県79.5%、全国82.8%(−3.3%)》

伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだす力が十分でなかったことと、平均の意味についての理解が不十分であったことが考えられる。

・次の問題では、県の正答率が全国平均を上回っているが、正答率が30%未満であり、多くの児童が正しく答えられていない状況であった。

【3(2)】(思・判・表)分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述する力を問う問題

《県24.2%、全国23.0%(+1.2%)》

この問題の県の無解答率は13.1%、全国平均が15.7%であり、計算の方法(通分して足す)は理解しているが、「通分とはどういうことか」という考え方の部分がうまく理解できていなかったため、記述まで至れなかったことが考えられる。

○授業改善のポイント

- ・【3(1)】に関連して、数や小数の加法について、それぞれの相対的な大きさを理解し、数の構成単位や表し方を考慮しながら、既習の整数の加法に帰着できるように指導することが大切である。
- ・【3(2)】に関連して、分数の加法について、数の表し方や構成単位に注目し、共通の単位分数を見いだしながら、既習の整数の加法に帰着できるように指導することが大切である。さらに、「事実」を記述する際には、計算や図形の性質、数量の関係、表やグラフの特徴や傾向を記述することが重視される。よって、説明対象を明確に記述することができるように指導することが大切である。

小学校理科

学習指導要領の区分・領域	A区分		B区分	
	「エネルギー」を柱とする領域	「粒子」を柱とする領域	「生命」を柱とする領域	「地球」を柱とする領域
徳島(公立)	44.5	50.5	49.6	64.6
全国(公立)	46.7	51.4	52.0	66.7
差	-2.2	-0.9	-2.4	-2.1

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
徳島(公立)	53.5	56.7	
全国(公立)	55.3	58.7	
差	-1.8	-2.0	

問題形式	選択式	短答式	記述式
徳島(公立)	52.4	69.1	42.6
全国(公立)	54.7	69.7	45.2
差	-2.3	-0.6	-2.6

◇成果が見られる点

電磁石について、電流がつくる磁力を強めるために、コイルの巻数の変え方を表現できるかを問う問題の正答率が高かった。電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻数によって変わることが知識として身に付いている。《県81.0%、全国78.0%(+3.0%)》

▲課題が見られる点

学習指導要領で重視されている問題解決の力を踏まえて出題された、解決するための実験の方法を発想する問題の正答率が低かった。《県74.8%、全国79.5%(-4.7%)》

また、本県の中で無解答率(県10.0%、全国11.4%)が一番高かった問題は、実験結果から、気づきを基に新たな問題を見だし、表現する問題である。

○授業改善のポイント

エネルギー

・乾電池のつなぎ方について課題が見られたことから、ものづくりでできた装置を言葉や図に表現したり、言葉や図から装置を再構築したりするなどして、学習を通して得た知識の理解を深めることが大切である。例えば、ものづくりでできた装置を図で表現したり、設定した目的を達成できているかを振り返り、修正するといった学習活動が考えられる。

物質(粒子)

・水の結露について、温度によって水の状態が変化するという知識を関連付けて適切に表現する問題に課題が見られたことから、習得した個別の知識を概念的に理解するために、学習内容を他の学習や生活と関連付けることが大切である。

生命

・レタスの種子の発芽の実験結果から、気づきを基に新たな問題を見だし、表現することに課題が見られたことから、実験の結果を比較し、差異点や共通点を基に、具体的な条件に着目した問題を見出す場面を設定し、誰もが理解できる表現や考えた過程が分かる表現にをすることが考えられる。

地球

・粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、解決するための実験方法を発想することに課題が見られたことから、予想や仮説を基に変える条件や変えない条件整理しながら、生徒自ら条件を制御した実験を計画を立てることが大切である。

中学校国語

学習指導 要領の 内容	知識及び技能			思考力・判断力・表現力等		
	言葉の特徴や使い方に 関する事項	情報の扱い方に 関する事項	我が国の伝統文化に 関する事項	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと
徳島(公立)	47.4			52.2	52.7	59.1
全国(公立)	48.1			53.2	52.8	62.3
差	-0.7			-1.0	-0.1	-3.2

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
徳島(公立)	47.4	54.1	
全国(公立)	48.1	55.3	
差	-0.7	-1.2	

問題形式	選択式	短答式	記述式
徳島(公立)	62.9	74.7	23.0
全国(公立)	63.9	73.6	25.3
差	-1.0	+1.1	-2.3

◇成果が見られる点

相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる問題の正答率は高く、ほぼ全国平均並みであった。

【〔2二〕 正答率:徳島県77.2% 全国77.9%】

また、読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整える問題は、全国平均を上回っていた。

【〔4一〕 正答率:徳島県62.0% 全国57.3%】

▲課題が見られる点

文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる問題の正答率が低かった。二つの作品を読み、文章の展開についてどのような効果があると考えられるか、自分の考えを具体的に書き、さらにそのように考えた理由を、文章の内容を適切に取り上げて書くことができなかったと考えられる。

【〔3四〕 正答率:徳島県13.2% 全国17.1%】

また、読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることに課題が見られた。

【〔4二〕 正答率:徳島県26.3% 全国30.1%】

○授業改善のポイント

【定着に課題がある指導事項の明確化】→ カリキュラムマネジメントの推進

- ・課題を学校全体で共有し、系統性を意識した組織的な学習指導の改善充実を図る。
- ・定着に課題がある指導事項を明確にし、年間指導計画に反映させるなどして、反復的・発展的に繰り返しながら学習し、定着を図る。

【生徒のつまずきに応じた学習指導】→ 「徳島版読解力」の活用

- ・「必要な情報を取り出す力(読み取った情報から、目的や意図に応じて、必要な情報を選び出す力)」や、「比較・関連付けて理解する力(取り出した情報を比較したり、相互の関係性を見いだしたりしながら、共感的、批判的な視点で情報の価値を捉える力)」の育成に力を入れる。
- ・情報を取り出して整理し、その関係を捉えることで、話や文章を正確に理解したり、自分のもつ情報を整理して、その関係を分かりやすく明確にすることで、適切に表現したり発信したりする学習活動を設定する。
- ・「『徳島版読解力』を育成するための学習活動モデル」を授業に取り入れる。

【「主体的・対話的で深い学び」の実現】

- ・「質問紙調査」の結果を分析し、学習指導の改善・充実に役立てる。
- ・他者から、考えや表現の仕方を学び、交流を生かして考えを表現したり、学んだことを振り返って今後に生かしたりする。

中学校数学

学習指導要領の領域	A 数と式	B 図形	C 関数	D データの活用
徳島(公立)	44.7	43.9	50.9	63.5
全国(公立)	43.5	46.5	48.2	58.6
差	+1.2	-2.6	+2.7	+4.9

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
徳島(公立)	57.2	38.0	
全国(公立)	54.4	39.1	
差	+2.8	-1.1	

問題形式	選択式	短答式	記述式
徳島(公立)	52.0	55.9	39.0
全国(公立)	54.0	52.0	39.6
差	-2.0	+3.9	-0.6

◇成果が見られる点

- ・県全体の平均正答率(49%)は、全国平均(48.3%)を上回り、「知識・技能」の観点においても、全国平均を上回った。
 - ・全国平均と比べて特に正答率が高かった問題として、次の問題が該当する。
 - 【5】(知・技)相対度数の意味を理解しているかどうかを問う問題 《県62.3%、全国42.5%(+19.8%)》
 - 【4】(知・技)一次関数の変化の割合を基に、 x の増加量に対する y の増加量を求められるかを問う問題。
 - 《県47.8%、全国34.7%(+13.1%)》
- これらの結果から、相対度数と一次関数の変化の割合に関する知識及び技能の習得について、全国平均よりも高い水準にあることがうかがえる。

▲課題が見られる点

- ・県全体の平均正答率(49%)は、全国平均(48.3%)を上回っているが、「思考・判断・表現」の観点においては、全国平均を下回った。
 - ・全国平均と比べて特に正答率が低かった問題として、次の問題が該当する。
 - 【6(1)】(知・技)事柄が常に成り立つとは限らないことの説明において、反例をあげられるかを問う問題
 - 《県57.9%、全国62.8%(-4.9%)》
- 事柄が常に成り立つとは限らないことを説明する場面において、成り立たない例をあげることについての理解が十分ではなかったと考えられる。誤答から、文字を用いて説明する必要があると考え、具体的な数で例をあげることができなかったと考えられる。
- 【9(3)】(思・判・表)ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明する力を問う問題
 - 《県29.5%、全国33.2%(-3.7%)》
- この問題の県の無回答率は39.2%で、全国平均が31.5%で、全国平均よりも7.7%上回っている。既に正しいといえたことをもとに、証明に必要な根拠を見いだすことが難しかったと考えられる。その結果、証明の構想を立てることができず、記述まで至れなかったことが考えられる。また、記述できているものについては、根拠が抜けていたり、その表現が十分でなかったりする誤答も多かった。
- ・次の問題では、県の無回答率は41.6%で、全国平均の35.0%を6.6%上回った。
 - 【8(2)】(思・判・表)事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する力を問う問題
 - 《県36.1%、全国38.0%(-1.9%)》
- 既習内容を活用しながら、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する力が十分でなかったため、記述まで至れなかったことが考えられる。

- ・次の問題では、県の正答率が24.8%で、全国平均の25.7%を下回るとともに、正答率が30%未満であり、多くの生徒が正しく答えられていない状況であった。

【6(2)】(思・判・表)式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明する力を問う問題

《県24.8%、全国25.7%(+0.9%)》

この問題の県の無回答率は27.9%で、全国平均が24.9%で、全国平均よりも3.0%上回っている。式の意味を読み取り、成り立つ事柄を数学的に表現する力が十分でなかったことから、記述まで至れなかったことが考えられる。また、誤答として、 $2(3n+1)+1$ から読み取れない内容で、連続する二つの3の倍数の和に関する成り立つ事柄を記述する解答や成り立たない事柄を記述している解答が見られた。

○授業改善のポイント

- ・【6(1)】に関連して、命題や事柄が常に成り立つとは限らないことを示すには、反例を一つあげ、それを根拠として説明できるように指導することが大切である。
- ・【6(2)】に関連して、式の意味を読み取り、文字を用いて事柄の特徴を数学的に説明できるように指導することが大切である。
- ・【8(2)】に関連して、様々な問題を数学を用いて解決できるように、問題解決の見通しを立てる場面や過程や結果を振り返る場面において、数学を活用する方法を考え、それを説明できるように指導することが大切である。
- ・【9(3)】に関連して、事柄が成り立つことを証明できるようにするために、仮定や仮定から分かる事柄、結論を導くために必要な事柄を明らかにし、証明の方針を立て、その方針を基に推論の過程を数学的に表現できるように指導することが大切である。
- ・【6(2)】【8(2)】【9(3)】は記述力を重視した問題である。徳島版読解力を活用し、以下のポイントを参考に記述力向上の授業改善を進めることが重要である。上記に示したポイントとも組み合わせて取り組むことで、効果を高めることが期待される。

【正確に読む力】

数学の問題文や条件を正確に読み取り、前提と結論の関係を理解することができるようにする。

【必要な情報を取り出す力】

表やグラフなどの中から、問題解決に必要な情報を選び出し、それらを活用して問題解決を行うことができるようにする。

【比較・関連付けて理解する力】

複数の解法を比較し、それらの関連性等を見だしながら論理的に問題解決を行うことができるようにする。

【見直す力】

解答後に自己・相互点検を行い、ミスや論理の矛盾を発見し、記述内容を精査することができるような場を設ける。

【発信する力】

数学的な思考を整理し、自分の考えを他者に伝えるために、説明や意見交換の機会を設ける。

中学校理科

学習指導要領の領域	「エネルギー」を柱とする領域	「粒子」を柱とする領域	「生命」を柱とする領域	「地球」を柱とする領域
徳島(公立)	55.9	60.2	43.6	35.0
全国(公立)	56.1	61.7	44.8	37.3
差	-0.2	-1.5	-1.2	-2.3

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
徳島(公立)	66.2	36.4	
全国(公立)	66.8	38.8	
差	-0.6	-2.4	

問題形式	選択式	短答式	記述式
徳島(公立)	56.1	46.9	35.1
全国(公立)	56.9	44.9	39.3
差	-0.8	2.0	-4.2

※上の表の各正答率は、県教委が公開されている問題のIRT(項目反応理論)に基づいた予測正答率を平均して算出したものである。

◇成果が見られる点

一酸化炭素は空気より軽いという性質を基に適切な避難行動を選択する問題《県95.2%、全国92.8%(+2.4%)》と消化によってデンプンがブドウ糖に分解されることと同じ化学変化であるものを選択する問題《県55.3%、全国51.6%(+3.7%)》において、正答率が高かった。

▲課題が見られる点

科学的に探究する過程について、身の回りの事象から生じた問題や見いだした問題を解決するための課題を記述する問題において正答率が低かった。《県37.9%、全国46.2%(+8.3%)》

また、科学的に探究する過程を踏まえて初めて出題された「探究の過程における振り返り」を記述する問題は、正答率《県69.9%、全国79.4%(+9.5%)》が低いことに加え、無解答率《県14.9%、全国9.9%(+5.0%)》が高かった。

○授業改善のポイント

エネルギー

・量的・関係的な見方を働かせ、考察の妥当性を高めるために、科学的な探究の過程を振り返り、探究の見通しをもつことが大切である。科学的な探究の見通しをもつために、すぐに観察、実験を行うのではなく、個人やグループなどで「観察、実験の結果から何が分かればよいのか」について、確認して共有するなどの学習場面を設定することが考えられる。変える条件に着目した実験を計画し、予想される実験の結果を適切に説明するなどの場面において、「実験1と比較して・・・」など、比較して関連付ける対象を明確にして示すような言語活動の充実も求められる。

物質【粒子】

・化学変化を質的・実体的な見方を働かせて捉えることが大切である。化学変化を原子や分子のモデルを用いて、考察させるなど、微視的に事物・現象を捉えるようにすることが考えられる。その際、1人1台端末を使用して原子や分子のモデルを動かし、生徒が試行錯誤できるようにすることが考えられる。

生命

・生物が生命を維持するための体のつくりと働きについて、共通性と多様性を見方を働かせて、既習事項や日常経験などと関連付けて捉えることが大切である。自然の事物・現象の特徴を、日常生活や他の自然の事物・現象に適用させる学習場面を設定することが考えられる。その際、あらかじめ個人で考え、他者との意見交換をし、知識及び技能をそれぞれ関連付けて、多面的、総合的に探究することが重要である。

地球

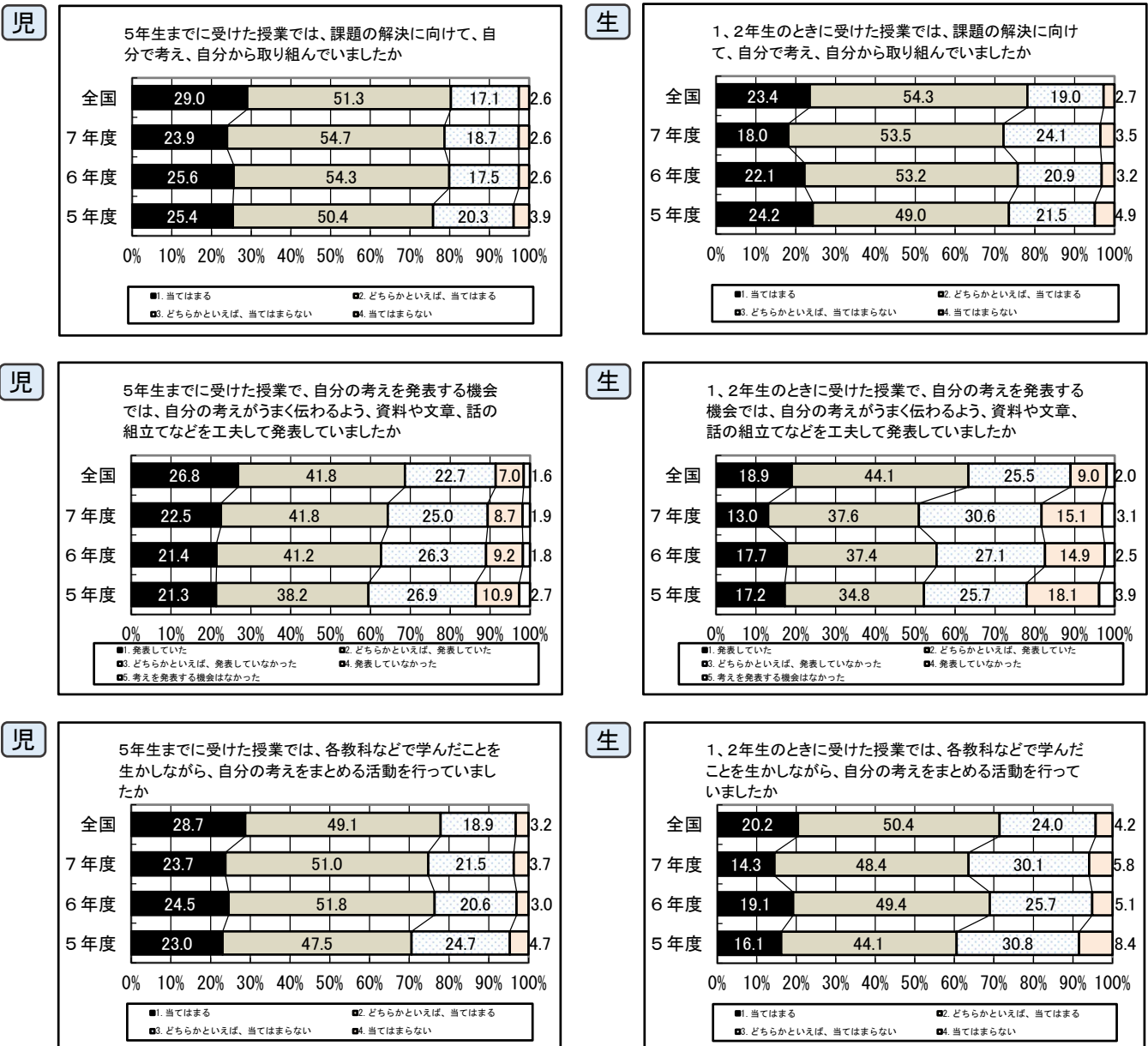
・時間的・空間的な見方を働かせて、過去に起きたと考えられる事象を推論したり、地層の広がり方を推定したりできるようにすることが大切である。大地の変化に関する知識及び技能と過去に起きたと考えられる事象を関連付けて考察する学習場面を設定することが考えられる。

また、気圧に関する身近な事象を、身に付けた知識及び技能と関連付けて捉えることも大切であり、そのような学習場面を設定することが考えられる。その際、実験等を行い、生徒が気圧を実感できるようにすることが大切である。

- 「前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」「授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」「授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」という質問に対して肯定的な回答をした割合（選択肢1と2の合計）は、小・中学校とも全国平均を下回っている。
- 「自分にはよいところがあると思いますか」という質問に対して肯定的な回答をした割合は、小・中学校とも全国平均を下回っているが、前年度より向上している。
- 「学校に行くのは楽しいと思いますか」という質問に対して肯定的な回答をした割合は、小・中学校とも前年度より向上し、小学校は全国平均を上回り、中学校は全国平均を下回っている。
- 「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」という質問に対して肯定的な回答をした割合は、小・中学校とも全国平均を下回っている。
- 「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会（学級活動）で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」という質問に対して肯定的な回答をした割合は、小・中学校とも全国平均を下回っている。

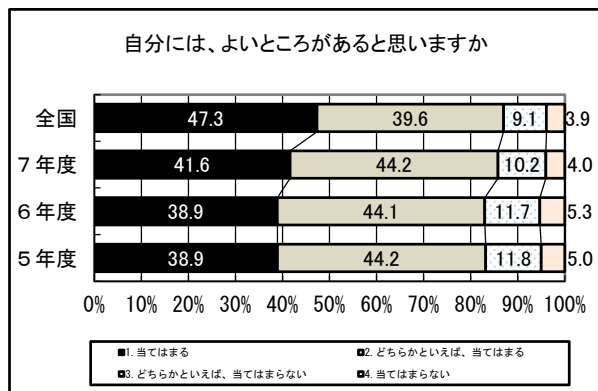
下のグラフには、無回答を除いて集計しているため、合計値が100%未満となっているグラフがある。

【主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況】

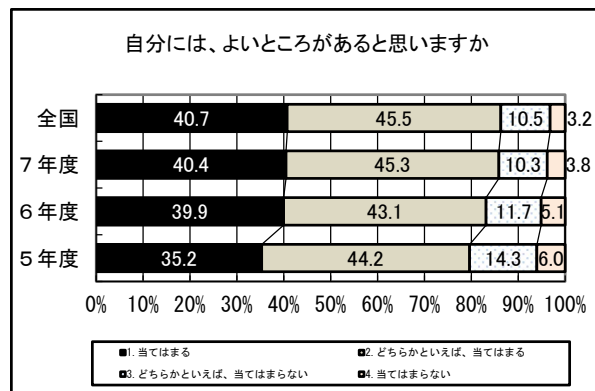


【自己有用感・幸福感等】

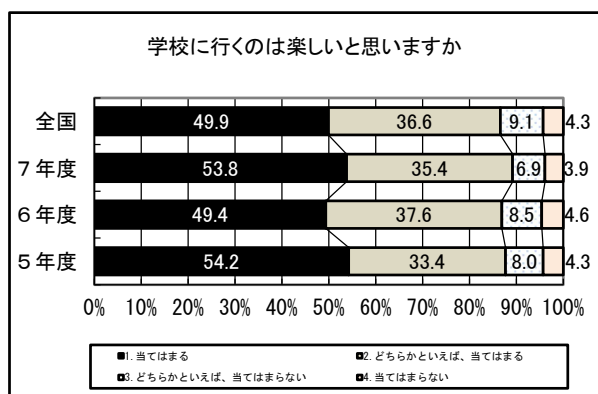
児



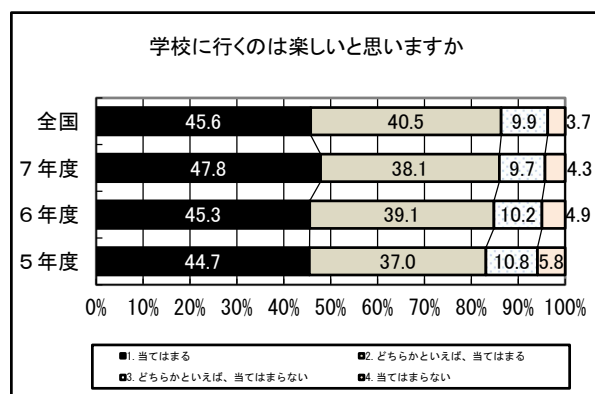
生



児

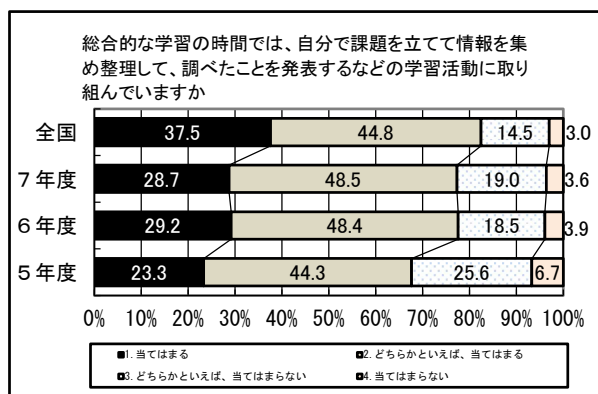


生

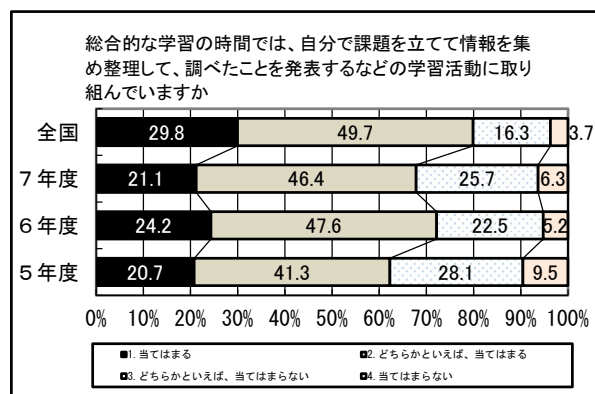


【総合的な学習の時間と学級活動に関する取組状況】

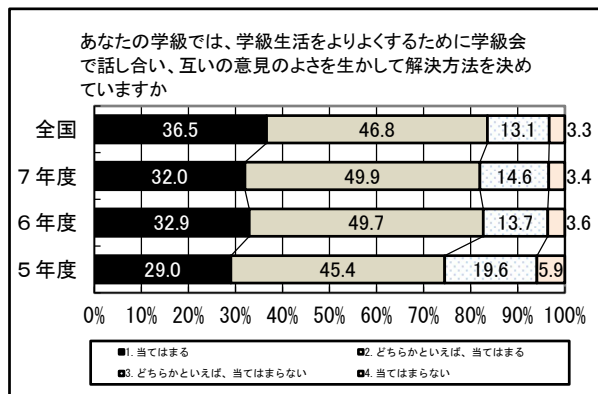
児



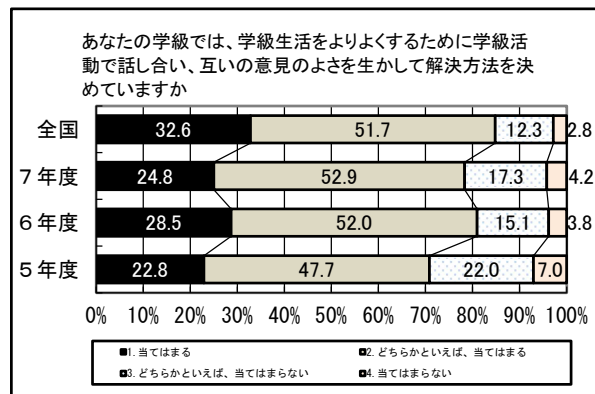
生



児



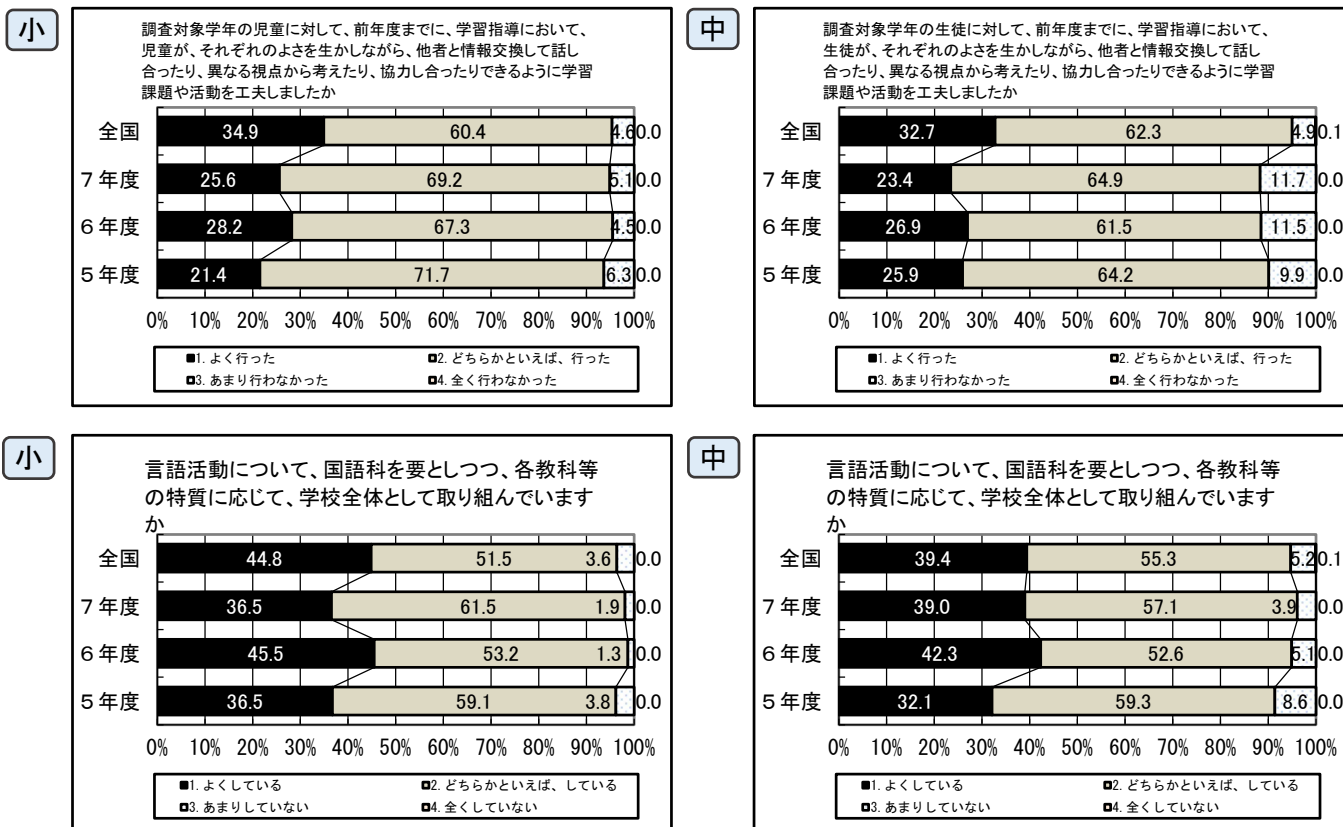
生



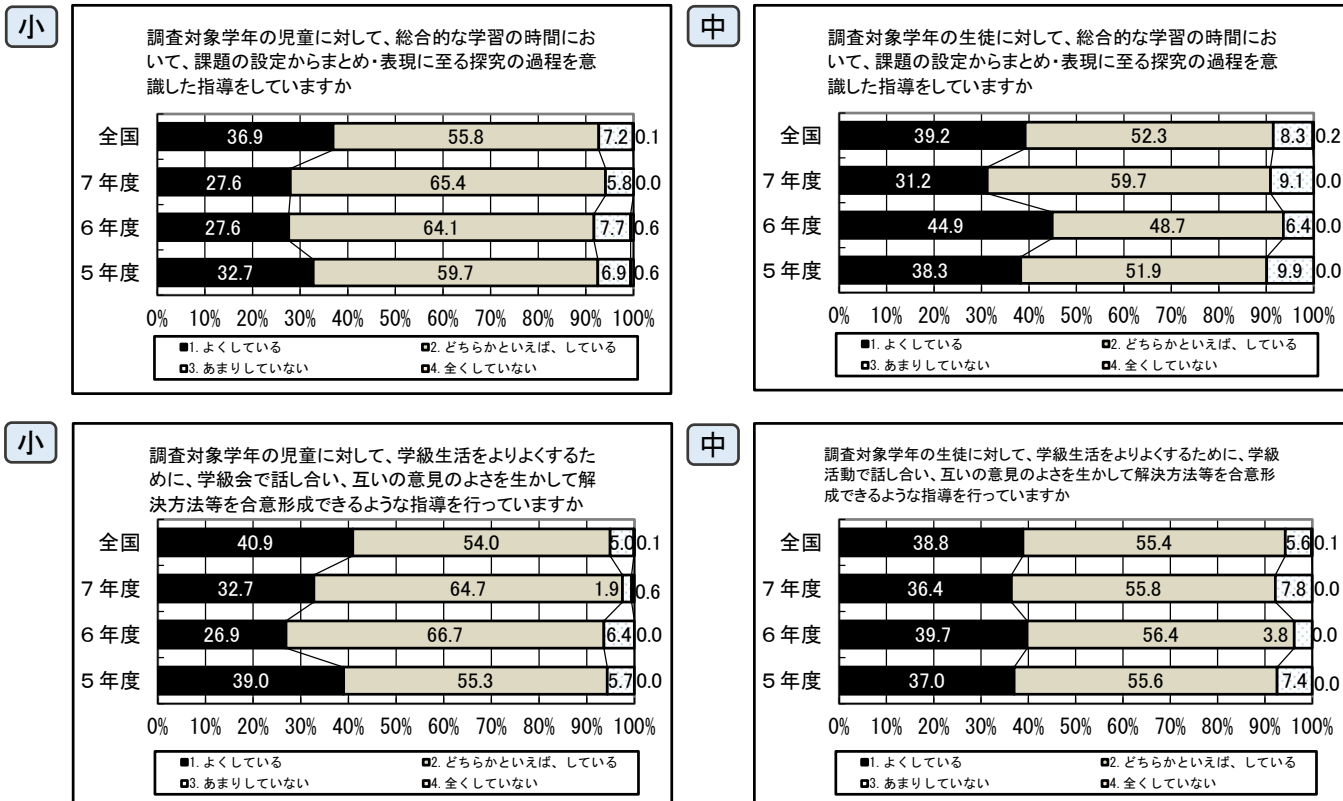
- 「前年度までに、学習指導において、児童(生徒)が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫しましたか」という質問に対して肯定的な回答をした割合(選択肢1と2の合計)は、小・中学校とも全国平均を下回っている。
- 「言語活動について、国語科を要しつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んでいますか」という質問に対して肯定的な回答をした割合は、小・中学校とも全国平均を上回っている。
- 「総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしていますか」という質問に対して肯定的な回答をした割合は、小学校は全国平均を上回り、中学校は全国平均を下回っている。
- 「学級生活をよりよくするために、学級会(学級活動)で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法等を合意形成できるような指導を行っていますか」という質問に対して肯定的な回答をした割合は、小学校は全国平均を上回り、中学校は全国平均を下回っている。
- 「児童(生徒)の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどにに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか」という質問に対して肯定的な回答をした割合は、小・中学校とも全国平均を下回っている。
- 「授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか」という質問に対して肯定的な回答をした割合は、小・中学校とも全国平均を下回っているが、前年度より向上している。

下のグラフには、無回答を除いて集計しているため、合計値が100%未満となっているグラフがある。

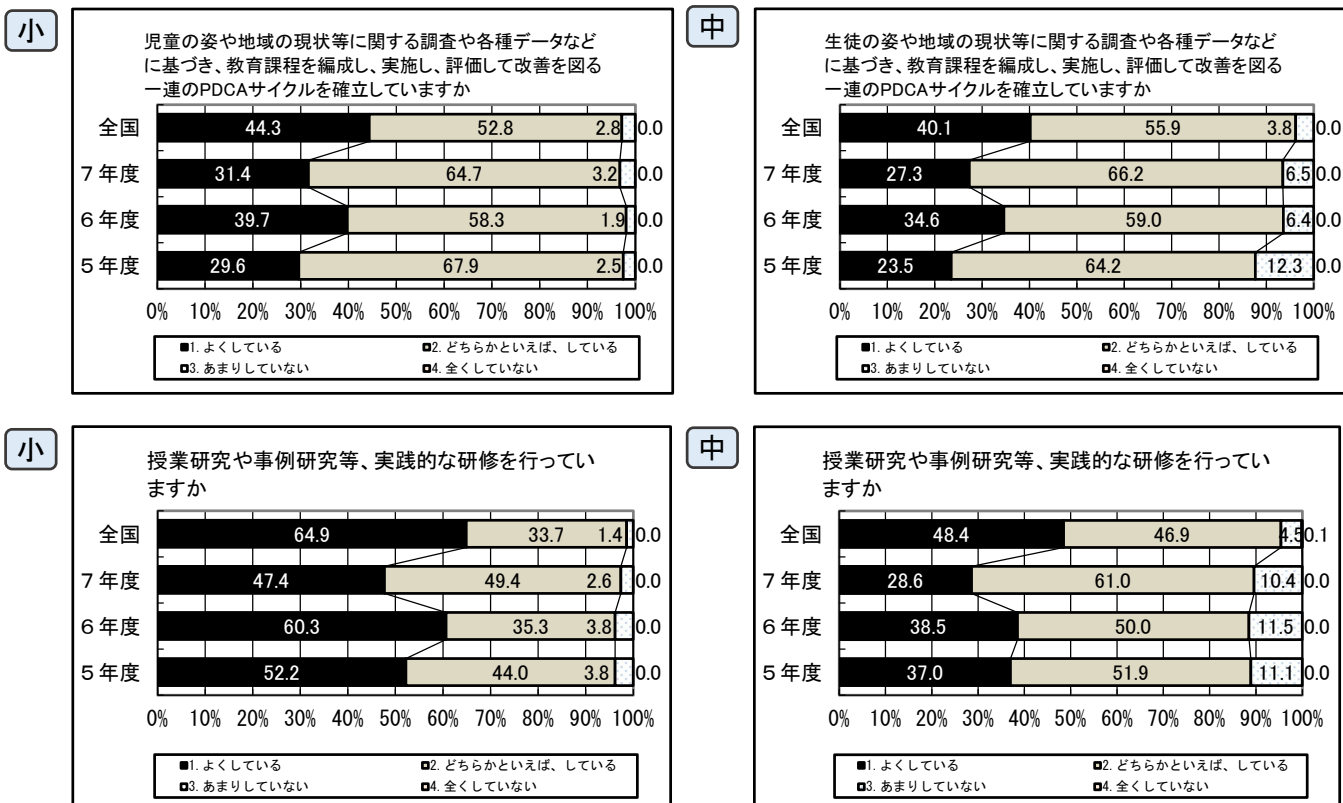
【主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況】



【総合的な学習の時間と学級活動に関する取組状況】



【教職員の資質向上に関する取組状況】



令和7年度全国学力・学習状況調査【小学校】
平均正答率 一覧
都道府県別（指定都市を含む）

※都道府県（指定都市を含む）の平均正答率は、公立のみの数字である。
※平均正答率の微小な差異は実質的な学力面の違いを示すものではないため、都道府県・指定都市別の結果は小数点以下を四捨五入した整数値としている。

	国語(%)	算数(%)	理科(%)
	令和7年度	令和7年度	令和7年度
全国 (国公立)	67.0(9.4問/14問)	58.2(9.3問/16問)	57.3(9.7問/17問)
全国 (公立)	66.8(9.4問/14問)	58.0(9.3問/16問)	57.1(9.7問/17問)
北海道	65	55	56
青森県	67	57	59
岩手県	67	54	56
宮城県	65	55	55
秋田県	71	60	61
山形県	65	55	58
福島県	65	55	56
茨城県	67	57	59
栃木県	66	58	58
群馬県	66	56	58
埼玉県	68	58	58
千葉県	66	58	57
東京都	70	64	60
神奈川県	66	59	57
新潟県	66	56	55
富山県	69	61	62
石川県	70	62	61
福井県	69	60	61
山梨県	66	56	57
長野県	66	56	56
岐阜県	65	56	56
静岡県	66	57	55
愛知県	65	58	56
三重県	66	57	56
滋賀県	65	57	56
京都府	69	60	60
大阪府	65	58	55
兵庫県	68	59	57
奈良県	67	58	57
和歌山県	68	58	57
鳥取県	65	55	56
島根県	64	55	56
岡山県	67	56	57
広島県	69	59	59
山口県	68	58	58
徳島県	66	59	55
香川県	67	59	57
愛媛県	65	58	57
高知県	68	59	59
福岡県	68	57	57
佐賀県	64	54	55
長崎県	66	56	57
熊本県	66	55	57
大分県	69	60	60
宮崎県	66	55	56
鹿児島県	67	57	60
沖縄県	64	51	51

令和7年度全国学力・学習状況調査【中学校】
平均正答率・平均IRTスコア 一覧
都道府県別（指定都市を含む）

※都道府県（指定都市を含む）の平均正答率・平均IRTスコアは、公立のみの数字である。

※平均正答率の微小な差異は実質的な学力面の違いを示すものではないため、都道府県・指定都市別の結果は小数点以下を四捨五入した整数値としている。

※平均IRTスコアは、10刻みの範囲で表記している。

	国語 (%)	数学 (%)	理科
	令和7年度	令和7年度	令和7年度
全国 (国公立)	54.6(7.6問/14問)	48.8(7.3問/15問)	505
全国 (公立)	54.3(7.6問/14問)	48.3(7.2問/15問)	503
北海道	54	47	505～514
青森県	54	46	505～514
岩手県	54	43	495～504
宮城県	54	46	495～504
秋田県	57	49	515～
山形県	54	45	495～504
福島県	53	45	495～504
茨城県	55	50	505～514
栃木県	54	48	495～504
群馬県	55	48	515～
埼玉県	55	50	495～504
千葉県	54	47	495～504
東京都	57	53	505～514
神奈川県	55	51	505～514
新潟県	54	46	495～504
富山県	56	51	515～
石川県	57	54	515～
福井県	56	53	515～
山梨県	53	45	495～504
長野県	55	46	505～514
岐阜県	54	50	515～
静岡県	56	51	515～
愛知県	54	51	515～
三重県	53	47	495～504
滋賀県	52	46	495～504
京都府	55	49	495～504
大阪府	52	47	485～494
兵庫県	54	49	505～514
奈良県	53	47	485～494
和歌山県	52	45	～484
鳥取県	52	44	485～494
島根県	53	46	485～494
岡山県	55	48	495～504
広島県	55	47	495～504
山口県	55	48	495～504
徳島県	53	49	485～494
香川県	53	49	495～504
愛媛県	54	46	495～504
高知県	53	44	～484
福岡県	54	47	495～504
佐賀県	53	44	485～494
長崎県	54	46	495～504
熊本県	53	44	495～504
大分県	53	45	495～504
宮崎県	51	42	～484
鹿児島県	53	45	485～494
沖縄県	49	38	～484